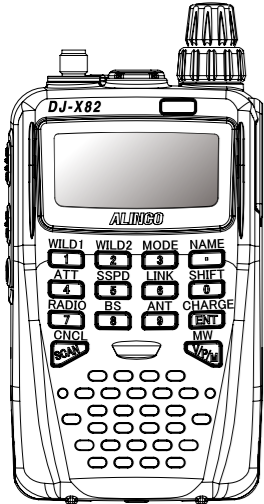


DJ-X82

クイックガイド



お断り

本書は具体的に説明することを目的に実際の周波数や地名を引用していますが、これらは変更されたりデータが編集されたりして変わることがあります。あくまで参考とお考えください。

- このクイックガイドは DJ-X82 を使い始めるのに必要な操作を、順を追ってまとめたものです。必ず注意書きから順に最後まで読みながら操作してください。途中から読むと正しく操作できない事があります。**
- ウェブサイトで公開している取扱説明書も必ずお読みください。ここに書かれていない便利な使い方や機能が説明されています。
- ここに記載の安全、使用上の注意は抜粋です。
- 同梱の保証書、周波数データリストなどの書類も必ず保存してください。

国や地域によってはレシーバーは持ち込みや使用に厳しい制限があり、違反すると罰せられます。本機は日本の規格に準拠した国内向け製品です。海外の規格認証は受けられません。

This product is intended for use only in Japan. FCC/CE and other foreign approvals are not granted. The use of communications receivers is restricted in many countries.

アルインコ株式会社 電子事業部

〒541-0043 大阪府中央区高麗橋4丁目4番9号 淀屋橋ダイヤビル13階 TEL.06-7636-2361

本文中ではTM、®などのマークを省略しています。本書の内容の一部、または全部を無断で複写/転用することは禁止されています。

PS1146
FNFH-NK
Copyright Alinco,Inc.
Printed in Philippines

ご注意

(必ずお読みください)

ここに掲載の注意は、このクイックガイドを読んで本機を使い始めるにあたって必要と思われる重要な注意事項だけを抜粋したものです。必ず取扱説明書の注意事項をお読みください。取扱説明書をお読みにならないで発生する事故やトラブルは、賠償責任が発生しない限り責を負いかねます。

警告

- 自動車等の運転中に操作しないでください。交通事故の原因となります。
- 運転者が操作するときは車を安全な場所に止めてからご操作ください。携帯型無線機を運転者が走行中に手に持って使ったり、表示を注視したりすると道路交通法違反で罰せられます。
- 運転中のイヤホンの使用は、ほとんどの自治体で条例違反です。
- 航空機内のような電子機器の使用が禁止、制限されている場所では電源を入れないでください。安全運航に支障をきたします。
- 本機は防爆仕様ではありません。
- そのような環境下でお使いになるとの事故やトラブルは責任を負いかねます。
- この製品を何らかのシステムや電子機器の一部として組み込んで使用した場合、いかなる誤動作・不具合が生じても製造元および販売元はその責任を負うものではありません。

注意

- 本機は調整済みです。分解・改造して使用しないでください。感電・故障の原因となります。
- 水をかけたり、ほこりが入ったりしないようにご注意ください。故障の原因となります。
- 本機は防水・防塵仕様ではありません。
- イヤホンを使用する場合、あらかじめ音量を下げてください。聴力障害の原因となります。
- 湿度の高い場所、ほこりの多い場所、風通しの悪い場所には置かないでください。感電・故障の原因となることがあります。
- 直射日光があたる場所や車のヒーターの吹き出し口など、温度が高くなる場所には置かないでください。冬季でも内部の温度が上がり、変形・変色したり、発熱の原因となることがあります。
- 廃棄するときは自治体の指定する方法で家電ごみとして処分できます。電池は地域の指定する方法でリサイクルしてください。
- 電池が液漏れして皮膚や衣服に付着したときは、すぐにきれいな水で洗い流してください。口や目に入った時は医師にご相談ください。

異常時の処置について

- 以下の場合は、すぐに本体の電源を切り、USBアダプターをご使用の場合は、コンセントから抜いてください。異常な状態で使用すると、火災・感電・故障の原因となります。修理はお買い上げの販売店、または弊社サービス窓口にご連絡ください。お客様による修理は、絶対にお止めください。弊社指定の技術員以外が手を入れた製品は修理をお断りしています。

- 異常な音が出たり、煙が出たり、変な臭いが出るとき
- 落としたり、ケースを破損したりしたとき
- 内部に水や異物が入ったとき

- 雷が鳴り出したら安全のために本体の電源を切り、アンテナを外し、USBアダプターをご使用の場合はコンセントから抜いてください。電源やアンテナのケーブルを通る雷害を防止するためです。屋外での使用時、雷が聞こえたらすぐに安全な屋内に避難してください。

■使用上のご注意

他人の居る場所で使用する場合は必ずイヤホンをお使いください。周囲の迷惑になります。

■電波法上のご注意

国内での本機の使用に資格や免許、許可は必要ありませんが、受信して知り得たことを発信者に無断で公開、使用すると罰せられます。放送以外、音声もデータも全ての通信が対象です。

* 第59条 (秘密の保護)
何人も法律に別段の定めがある場合を除くほか、特定の相手方に対して行われる無線通信（中略）を傍受してその存在若しくは内容を漏らし、又はこれを傍受してはならない。

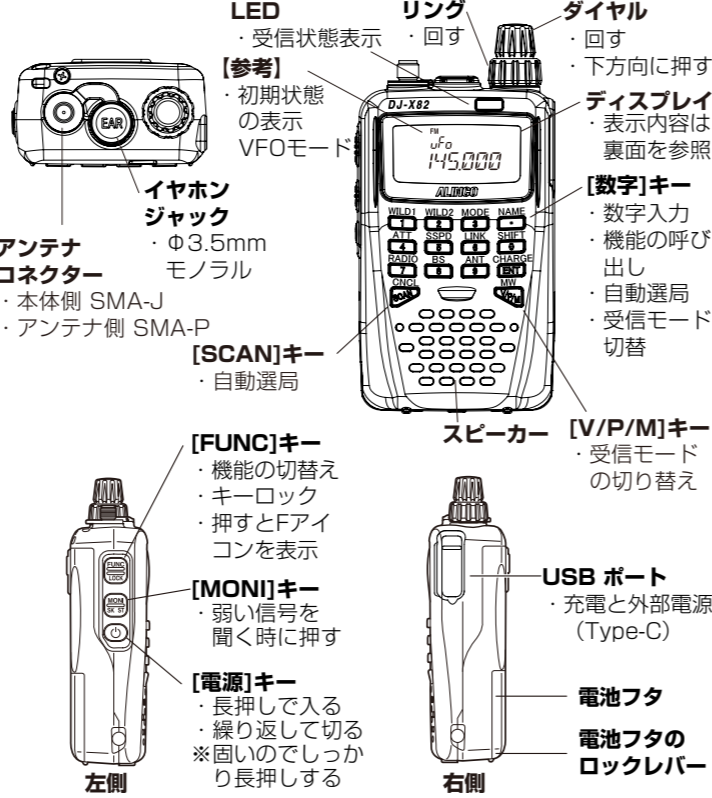
* 第109条 無線局の取扱中に係る無線通信の秘密を漏らし、又は窃用した者は、1年以下の懲役又は50万円以下の罰金に処する。2 無線通信の業務に従事する者がその業務に関し知り得た前項の秘密を漏らし、又は窃用したときは、2年以下の懲役又は100万円以下の罰金に処する。

付属品

■本機 ■本書 ■保証書 ■周波数データリスト ■USBケーブル
■アンテナ ■充電池×2 EBP-179 ■ベルトクリップ EBC-28(装着済)

不足があればすぐに購入元にご相談ください。別売オプションと付属品のスペアはアルインコ電子事業部HPをご覧ください。

各部の名称と働き - 必ず覚えてください -



充電池(EBP-179)の充電

1：右側面上部の USB ポートのキャップを開け、USB ケーブルの Type-C 側を接続します。

2：USB ケーブルの Type-A 側を市販の USB アダプターに接続してAC100V のコンセントに接続します。

重要 ・ディスプレイ右上隅に[**C**]アイコンが表示されたら充電または電池交換してください。電池残量が多い時は表示されません。また、充電タイプをONまたはON-LEDに設定した時、USB給電中はアイコンが点滅します。

充電タイプ変更

[FUNC]キーを押した後、[ENT]キーを押すと「CHArGE」が表示されます。ダイヤルを回して好みの充電方法を選び、[FUNC] キーを押して確定します。ONまたはON-LED設定時、10時間充電して自動終了します。

- ON**：電源を切った時だけ [CHG + 充電の残り時間] をカウントダウンで表示します。
- ON -- LED**：充電中はLEDが赤点灯、信号受信すると点灯色が変わります。電源を切っていると [CHG + 充電の残り時間] をカウントダウンで表示します。
- OFF**：充電しません。モバイルPCで編集ソフト使用時、PCから充電させない設定です。戻し忘れにご注意ください。

市販品の USB アダプターの動作不良は製品保証の対象外です。信頼できる製品をお使いください。モバイルバッテリーも充電に使用できますが、製品保証の対象外です。USB アダプターはノイズを発生して、受信に影響することがありますが製品の異常ではありません。

重要 ・他にも充電と電池に関してご注意いただきたい重要なことがありますので、必ず取扱説明書をお読みください。
・お買い上げ直後は充電池を充電してからお使いください。
・弱電流で所定時間充電するトリクル方式です。
・充電が完了するとディスプレイの表示が「bAtt FULL」になります。

VFOモード/[数字]キーとダイヤル操作、リセット、音量、ステップ、キーロック

*知っている周波数を入力して受信するときが一番簡単な方法です。

ACARS（エーカーズ）131.25MHzと131.45MHzはデータ通信ですが空港から離れた場所で一番受信しやすい航空無線です。これが受信できれば音声通信も受信できます。また説明のために一度リセットしてください。

■周波数を手動で入力して受信させる方法を説明します。

1：電源を切り、[FUNC]キーを押したまま電源を入れ、ディスプレイの全体表示が出たら指を離すと、リセットできる。
「FM vFo 145.000」の表示になる。

「vFo」の表示がVFOモードの目印です。

【参考】次からはリセットせずに [V/P/M] キーを押すだけで構いません。操作がわからなくなったら、まずはリセットして初めからやり直します。

2：[数字]キーで[1][3][1][.][2][5]と押し、表示が「131.25」になったら[ENT]キーを押す。「131.250 AM」と表示される。
「電波形式切り替え」が初期状態のAUTOモードでは電波型式AMは自動設定されます。

3：[電源]キーの上の[MONI]キーを押し続けると「ザー」とノイズが聞こえるのでリングを回し、適当な音量にする。
[MONI]キーを離すと「ザー」というノイズが消えます。

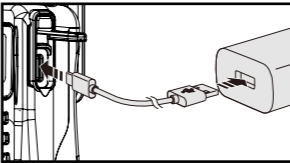
4：「ビギャ、ビ〜ギャギャ」と断続的に聞こえる信号を待ち受ける。
飛行機が多く飛んでいる時間帯に、空が広く見えるペランダや屋外に出て試してください。日本中どこでも受信できます。受信できたら周波数データリストの「バンク2 エアバンド カンパニー」で大手航空会社の「ER=エンルート」と説明がある周波数に合わせて待ち受けてください。「バンク0」のACCも上空からの信号です。

5：音声信号が途切れて聞こえるときは[MONI]キーを押し続ける。
「ザー」というノイズをカットするスケルチを一時的に開いて、弱い電波が拾いやすくなります。指を離すとスケルチが閉じます。

6：ダイヤルを回しても周波数が変わる。
25(kHz)ずつ数字が上下に変わります。[FUNC]キーを押したままダイヤルを回すとMHz単位で大きく数字を変えられます。
※ [FUNC]キーを押したらすぐにダイヤルを回さないで「ビビビ」と鳴ってキーロックになり、操作できなくなります。もう一度 [FUNC]キーを長く押し、解除してやり直します。誤操作を防止するため、キーやダイヤルの動きを制限するのがキーロックです。

■ステップを変更する。

【参考】ステップは割り当て周波数の間隔で、本機のダイヤルのワンクリックで変わる幅です。同じエアバンドでも25kHz、50kHz、100kHzとバンドによって異なり、FMの通信では12.5kHzや20kHzが多用されます。後述の電波型式とステップを合わせることが無線受信の基本です。また、同じ20kHzでも、VHF業務無線のように148.000から.020.040…ではなく、148.010から .030.050…と奇数が割り当てられるバンドもあります。ステップはVFOモードでしか使いませんが、メモリー登録するとき、正しく周波数を合わせるのにも必要です。



- ：VFOモードで[FUNC]キーを押す。
- ：すぐ下の[MONI]キーを押すと「AUTO」または「20k」のような数字が表示される。[MONI]キーを押すごとに交互に切り替わります。
- ：数字の画面でダイヤルを回すと「12.5k」、「25k」…のようにステップの値が変わる。ここでは50kを選びましょう。
- ：[FUNC]キーを押すと、「ピ」と鳴ってVFOモードの画面に戻る。先ほど20ずつ変わったステップが50ずつに変わります。
- ：操作を繰り返して「AUTO」に戻す。

【覚えてください】
・**リセット**：電源OFFの後、[FUNC]キー押しながら電源を入れて全体表示が出たら指を離す。
・**VFOモード**：「vFo」が表示される。リセット直後の状態。
・**音量調整**：[MONI]キーを押し続けながらリングを回して「ザー」という音を目安に調整。
・**モニター機能**：信号が弱いときに使う。[MONI]キーを押す。
・**[数字]キー入力** 周波数のMHzはメガヘルツの略。入力するとき左3桁の数字の次は必ず[3]の右隣の[.]キーを押す。
・**ダイヤルを回して周波数を変える**：[FUNC]キーを押したまま回すと大きく変わる。（キーロックに注意）
・**ステップ**：割り当て周波数の間隔、同じエアバンドでも「25kHz」、「50kHz」、「100kHz」とバンドによって異なる。ダイヤルのワンクリックで変わる幅。通常は「AUTO」を推奨。
・**キーロック**：[FUNC]キー長押しでロック。同じ動作で解除。

メモリーモード/受信方法の切替、登録済チャンネル、自動選局

* DJ-X82に登録されていない周波数を受信する方法です。登録された周波数がないとメモリーモードは操作できません。

■伊丹空港付近での受信を例に、実際のデータをもとに説明します。例の118.100MHzは羽田や那覇空港などでタワーに割り当てがありません。例えば千歳空港なら新千歳TWR、118.800MHz、メモリーCH 019「01 019 118.800 CNTROL」と読み替えてください。

操作 1：あらかじめ知っている周波数をメモリーモードで受信する。
書籍で伊丹空港のタワー管制周波数を調べると「118.100」でした。

1：展望デッキなど、空港の近くで安全に受信できる場所に行く。
【マナー】外で受信するときはイヤホンが必須です。一般的なφ3.5mmノラルイヤホンが使えますが、音質や音量は相性によって変わります。

※イヤホンを使う場合は、周囲の迷惑にならないよう音量を控えめにしてください。

2：VFOモードから[V/P/M]キーを押すとメモリーモードになり、「00 000 118.900 ACC」のような表示が出る。
分からなければリセットしてから[V/P/M]キーを1度押します。

3：周波数データリストを開いて「バンク1:エアバンド 管制(民間)」を見て、記載されている「118.100」を探す。
伊丹のほかにも複数の空港が118.100MHzに割り当てられています。

4：周波数データリストに記載のバンク番号とメモリーCHを覚える。
バンク番号01、メモリーCH 003、表示はCNTROLです。

5：[ENT]キーを押しながらダイヤルを回すごとにバンク番号と周波数表示が変わる。左端2桁のバンク番号を01にする。
時計回りで昇順、反対で降順に変わります。「01 000 118.000 CNTROL」が表示されます。

【参考】[ENT]キーを押しても1つつバンク番号が変わります。

6：ダイヤルを回して3桁のメモリーCHを003に合わせ、表示を「01 003 118.100 CNTROL」にする。

7：[電源]キーの上にある[MONI]キーを押し続けると「ザー」と音が鳴るのでリングを回し、適当な音量にして指を離し、待ち受け受信する。
初めての時はイヤホンを外してください。大きな音で耳を傷めることがあります。[MONI]キーを離すとノイズが消えます。

【参考】「bG 000」のような表示しか出ないときは、メモリーが消去されています。自分で手入力するか、アルインコが提供する無償のPCソフトで編集して書き込みます。

【覚えてください】

- [V/P/M]キー**：VFOモードとプライオリティモードとメモリーモードを切り替えるキー。ただし、プライオリティモードは設定しないとそのモードには入らない。
- メモリーモード**：「00 000」のように5桁の小さな数字と周波数、初期状態では周波数表示の代わりに「ACC」や「CNTROL」のような英数字記号が大きく表示される状態。
- メモリーチャンネル**：メモリーに登録された周波数。全部で1000個あるが、出荷時に多くが登録済になっている。
- メモリーバンク**：メモリーチャンネルをまとめておく場所。エアバンド、東京都、自宅で聞こえる信号…のように使いやすく区切って使う。
- メモリーバンク番号(バンク番号)**：表示左端の2桁の数字。出荷時は10個だが編集ソフトで50まで拡張可能
- メモリーチャンネル番号(メモリーCH)**：バンクの右側の3桁の数字000~999までの1000個。

操作2：自動選局「スキャン」を使う（メモリスキャン）

- 操作1の状態（バンク01）で[SCAN]キーを押す。**数字が自動的に変化して、信号を探し始めます。
- [01 043 120.450 CNTRL]で止まり、音声が聞こえた。**通信が途絶えたらすぐにスキャンが再開するので、素早く[SCAN]キーを押して止めます。スキャンしているかどうかは数字が止まって見えるかどうかではなく、ドットが点滅しているかどうかで判断します。
- 周波数データリスト「1：エアバンド 管制(民間)」で、43CH/120.450MHzを探す。**メモリーCH 043 周波数120.450MHzは関西アプローチ・レーダーの伊丹到着管制と分かります。スキャンを続けると同様に他の周波数でも止まります。信号を受信中にスキャンを再開したいときはダイヤルを回します。

■スキャンしたくないチャンネルをスキップする。(スキャン・スキップ)航空無線のATIS放送や、一部の乗物無線で使われる音声がない時でも無音信号が常時送信される周波数は必ずスキャンが止まります。これらをメモリースキャンに含めない方法です。伊丹ATISはバンク01、メモリーCH 133、128.600MHzです。

- メモリスキャンを止める。**[SCAN]キーを押してドット点滅を消します。
- [数字]キー[1]を押す。[-1]が表示されたら[数字]キー[3][3]と押すと、「ピ」と鳴って「133」になる。**メモリーCHは[数字]キーでも変えられます。例：メモリー1=[1][ENT]/メモリー21=[2][1][ENT]
- [FUNC]キーを押した後、すぐ下の[MONI]キーを押す。**周波数やネームの左端に**[SKIP]**が点灯します。次のスキャンから133番はスキップしてスキャンします。同じ操作で解除して「SKIP」が消灯します。

■特定の少数のチャンネルだけ素早く指定してスキャンする。(お気に入り選択)伊丹空港は118.100 / 118.800 / 119.500 / 120.450 / 121.700 MHzが頻繁に受信できます。

- メモリーモードで[FUNC]キーを押した後、ダイヤルを押し下げる。**〔DISP〕のような()にローマ字が入った「セットモードメニュー」が表示されます。
- リングを回して「(SCAN)」を選び、ダイヤルキーを押し下げる。**〔SLS 2-SEC〕のような表示に変わります。
- リングを回して「SCSP(スキャンスキップ)」を選び、ダイヤルを回して「FAV(お気に入り)」に合わせたら[FUNC]キーを押す。**メモリーモードに戻ります。全てのメモリーチャンネルに「SKIP」が表示され、メモリスキャンできない状態です。

- [ENT]キーとダイヤルでメモリーバンク01を選び、ダイヤルを回して周波数を「118.100」に合わせる。**メモリーは周波数順に登録されています。ダイヤルを時計方向に回します。
- [FUNC]キーを押した後、すぐ下の[MONI]キーを押す。**「SKIP」が消え、左下に[*]が表示されます。
- 上記4と5を繰り返して、伊丹空港の5チャンネル全てに[*]を表示させたら[SCAN]キーを押す。**5つのチャンネルだけをスキャンします。4と5の操作を繰り返すと「SKIP」が表示され、スキャンから外せます。
- [FUNC]キーを押した後にはダイヤルを押し下げて「SCSP」「FAV」を表示、ダイヤルを回して「SKIP12」を選んで[FUNC]キーを押す。**元のスキップ動作に戻ります。

【参考】通常スキップとお気に入り選択は別々の指定チャンネルを記憶します。どちらも指定数に制限はありません。違うバンクを選んで「ALL」スキャンもできます。初めて受信する場所では通常のスキップでノイズや放送を飛ばしてスキャンします。スキャンで見つけた信号やあらかじめ調べておいた周波数だけに絞って受信するにはお気に入り選択が便利です。

■スキップにした設定をリセットする。スキップに設定した周波数を全て解除します。他の設定には一切影響しません。電源を切り、[SCAN]キーを押したまま電源を入れます。全表示が出てから指を離すと、スキップとお気に入り選択が初期化されます。

【参考】例えば、旅行中のように受信場所が大きく変わるとき、スキップは簡単に解除できたほうが便利です。見つけたチャンネルはネームを編集したり新しく登録したりしてメモリー保存してください。

【覚えてください】

- スキャン**：自動選局。[SCAN]キーを押してスタート。もう一度押して止めるドットの点滅は選局中。ダイヤルを回すとスキャン方向が切り替わる。メモリーモードのスキャンはメモリスキャン、VFOモードはVFOスキャン。
- スキップ**：「SKIP」表示。[FUNC]キーを押した後、その下の[MONI]キーを押すとそのメモリーCHをスキャンから外す。同じ操作で解除。
- お気に入り選択**：[FUNC]キーとダイヤルを押し下げて入るセットモードでスキップモードを「FAV」にする。SKIPと同様の操作をすると、「SKIP」が「*」に変化。

メモリーされていない信号を探す/プログラムスキャン

特定の周波数範囲を指定して、その間だけを一定のステップで繰り返しスキャンします。DJ-X82のプログラムスキャンはPSメモリーチャンネルのA/BペアのA側に登録した電波型式とステップでスキャンします。出荷時に**24個**のペアが登録されています。ここではVHF業務無線のバンドをスキャンします。

- [V/P/M]キーを押してVFOモードにする。**
- [SCAN]キーを押し続ける。指は離さない。**押ししている間、「VFO」が表示されます。もし離したらスキャンが始まるので[SCAN]キーを押して、スキャンを止めてやり直します。
- ダイヤルを回すと「PRGRM、数字」が複数表示されるので、上側の小さい数字を「4 150、090」に合わせる。**小さい数字は周波数データリストのプログラムスキャンの登録番号で、4番はVHF帯の業務無線割り当て周波数150.090から154.370MHzの間だけを繰り返しスキャンします。

【参考】プログラムスキャンを「サーチ」と呼ぶこともあります。

- 指を離す。**スキャンが始まります。スキャン中の操作はメモリスキャンと同じです。「サーチ」のような音で止まるときはノイズや受信できない信号です。いつも同じところで止まるなら後述のオートサーチパス操作をすればスキップできます。メモリーモードのスキップとは操作が違います。
- 「153.450」でスキャンが止まり、音声が聞こえた。**すぐに[SCAN]キーを押してスキャンを止めると VFOモードで待ち受けできます。インターネットや書籍で調べると、各地の空港事務所 で業務連絡に使われている周波数の様です。これをメモリーチャンネルに登録する方法は後述します。
- 別のPS番号をスキャンする、VFOスキャンに戻る。**このまま[SCAN]キーを押すと、また4番でPSを再開します。5番の船舶を受信したければスキャンを止めてから3〜4の操作を繰り返して「PRGRM 5 156.025」表示を選んで指を離します。同じ操作で「VFO」を選ぶと初期値のVFOスキャンに戻ります。「PRGALL」は全てのPSペアを順番にスキャンします。

【参考】メモリーモードの**SINGLE**スキャンと**ALL**スキャン。メモリーモードで[SCAN]キーを押したまま同じ操作をすると、「SINGLE」と「ALL」が選べます。初期値は「SINGLE」で、選んだ1つのバンクのみ、「ALL」は全てのバンクを順にスキャンします。特定のバンクをリンクさせてスキャンするバンクリンクの操作は取扱説明書をご覧ください。

【覚えてください】

- プログラムスキャン(PS)**：上限と下限の周波数を決めて、その間をPSメモリーチャンネルペアのA側に設定した電波型式とモードでスキャン。
- PRGRM**：プログラムスキャン時の選択画面表示。VFOモードで[SCAN]キーを押しながらダイヤルを回す。

見つけた周波数をメモリーチャンネルに登録する

重要メモリーには電波型式や空線信号機能などの情報も登録できます。登録操作する前に電波型式やその他メモリーしたい/したくない情報に注意してください。例えば400MHz帯の軍用エアバンド周波数を選ぶとAUTOモードでは電波型式がAMではなくFMに設定されます。あらかじめ変えておかないと、登録をやり直すしかありません。メモリーチャンネルに登録できる情報は取扱説明書をお読みください。

■バンク8番の0chに153.450MHz FMを登録する。バンク8番は自由に使える10ch分の空きバンクです。後述の消し方の操作に使うので、153.450を000チャンネルに登録します。

- VFOモードで153.450 FMに合わせる。**ダイヤルや[数字]キーで入力します。AUTO設定なら自動でFMになります。
- [FUNC]キーを押す。**メモリーモード同様の表示が出ます。
- リングでバンク08、ダイヤルで「000」を選び「-----」のような表示を出す。**
- [V/P/M]キーを押す。**「ピ」と鳴ってVFOモードに戻れば終了です。[V/P/M]キーの上の印字MWはメモリーライト(メモリー書き込み)と覚えてください。[V/P/M]キーを押してメモリーモードで呼び出せます。このままでは周波数表示なので適当なネームを付けて、周波数データリストのバンク8の0ch欄に「伊丹空港事務連絡」、のようにメモしておきます。

【参考】3の操作で数字バンク以外、たとえばPSバンクやPAバンクを選ぶとプログラムスキャンやサーチパスメモリーが登録できます。

【覚えてください】

- 電波型式**：モードとも呼ばれる。DJ-X82はアナログ通信の代表的な電波型式、FM（周波数変調）とAM（振幅変調）の2つのモードが受信可能。ラジオ放送も同じ型式なのでFM放送、AM放送と呼ばれる。

オートメモリーとオートサーチパス

DJ-X82の便利な機能の一つです。見つけた信号やノイズをそれぞれ200chまで、1または2タッチするだけで自動で専用メモリーバンクに記録します。リセットしても消えません。スキャン中でも同じ操作で登録できます。オートメモリーは重複した周波数も登録しますが、オートサーチパスは重複登録しようとするら「DUPERR」と表示して登録しません。

- オートメモリー**
 - メモリーしたい周波数を選ぶ。**スキャン中に停止した周波数、または周波数を[数字]キーやダイヤルで入力します。
 - [FUNC]キーを押す。**Fアイコンが表示されます。スキャン中であればその周波数で止まります。
 - ダイヤルを長押しする。**「ピ」と鳴って「AT--000」のような表示が出て完了です。運用画面やスキャン状態に戻ります。「000」はメモリCHで小さい順に自動で割り当てます。
 - メモリーモード操作でAtバンクを選ぶ。**[V/P/M]キーでメモリーモードを選択、[ENT]キーを押したままダイヤルを回して「At」に合わせます。通常のバンクと同じ操作で登録した周波数を呼び出すことができます。

- オートサーチパス**
 - スキャンが止まる放送やノイズの周波数に合わせる。**スキャン中に見つけた時でも同じ操作ができます。
 - ダイヤルを長押しする。**「ピ」と鳴って「P2--001」のような表示が出て完了です。待ち受けやスキャン状態に戻ります。
 - メモリーモード操作でP2バンクを選ぶ。**[V/P/M]キーでメモリーモードを選択、[ENT]キーを押したままダイヤルを回してP2)バンクに合わせます。ここに登録された周波数はVFOやPSのスキャン時にスキップされます。メモリーチャンネルのスキップとは違います。

【参考】アンテナを外してVFOスキャンしたときに受信できるノイズは無線機が自分で作り出してしまうノイズで消えません。これはオートでは無いサーチパスバンクに登録しておくほうが便利です。

ラジオ放送を聞く (FMラジオモード)

本機のFMラジオ受信は通信の受信とは別の回路になっており、音量レベルにも差があります。「受信機とは別のFMラジオになる」とお考えください。

- [FUNC]キーを押した後、[7](RADIO)キーを押す。**「Radio」が表示され、FMラジオモードになります。
- ダイヤルを回すか[数字]キーで近くのFM局の周波数を合わせる。**

例：[8][8][.] [1][ENT] = 「Radio WFM 88.100」が表示されます。*FMラジオモードで[V/P/M]キーを押すごとにメモリーモードとFMラジオモードが切り替わります。*FMラジオモード中は[数字]キーの機能操作が一部制限されます。※例：[3](MODE)

- もう一度[FUNC]キーを押した後、[7](RADIO)キーを押す。**VFOモードになり、FMラジオモードを終了します。

メモリーチャンネルの編集と削除

■受信できたチャンネルに名前を付ける。(メモリーネーム)伊丹タワー118.100MHzの表示をCNTRLからITMTWRに変えます。

【参考】専用編集ソフトを使うとキーボード入力で簡単にできます。アルファベット、記号、数字を合わせて6文字まで表示できます。

- メモリーモードで「01 003 118.100 CNTRL」に合わせる。**[ENT]キーを押したままダイヤルを回して01、[ENT]キーを離れた状態でダイヤルを回して003に合わせる。
- [FUNC]キーを押した後、[.](NAME)キーを押す。**ディスプレイ右上に周波数、下に「CNTRL」が表示され「C」が点滅します。
- ダイヤルを回して「I」を選ぶ。**取扱説明書の「メモリーネーム機能」に選べる文字のリストがあります。
- リングを右に回して「N」を点滅させる。**「I」が入力され、「N」が点滅するのでダイヤルを回して「T」を選びます。
- 3と4を繰り返し残りの文字を入力する。**[V/P/M]キーを押すと、全ての表示を消して初めからやり直すことができます。
- 最後の「R」を点滅させたら[FUNC]キーを押す。**「ピ」と操作音が鳴り、「ITMTWR」表示でメモリーモードになります。

【覚えてください】

- メモリーネーム**：[FUNC]キーを押した後、[.](NAME)キーを押す。ダイヤルで文字を選びリングで左右移動。やり直しは[V/P/M]キー。終わったら[FUNC]キーを押す。

■選んだメモリーチャンネルを消す。重要全てのバンクに共通の操作です。前項のオートメモリーバンクを整理するのに便利なのでここで説明しますが、同様に普通のエアバンドや鉄道のバンクも消すことができます。消えると手動では復旧できなくなるのでご注意ください。※盗聴器発見のbG)バンクだけはプログラムされているので消せません。

- [V/P/M]キーでメモリーモードにする。**
- メモリーチャンネル受信と同じ操作で消去したいチャンネルを選ぶ。**ここではAtバンクの000を選びましょう。
- 「AT 000」と周波数が表示されたら[FUNC]キーを押した後、[V/P/M]キーを押す。**「ピ」と鳴ってチャンネルが1つ消えます。

- バンクごとデータを消去する。**バンク8を消去する場合は以下の手順で行います。
 - メモリーモードで[ENT]キーとダイヤルを操作して、消したいバンクを選ぶ。**ここでは登録されている「08 000 153.450」を選びます。
 - [FUNC]キーを押した後、[V/P/M]キーを長押しすると、「ERASE BANK?」が表示される。**消去を止めるときは[FUNC]キーを押します。
 - もう一度[V/P/M]キーを長押しする。**「ピ」と鳴ってバンクが消えます。

【参考】何もチャンネルが登録されていない空きバンクは書き込み操作をしないと出てきません。メモリーチャンネルを含む全てを初期化する方法がありますが、上級者向けの操作なので取扱説明書をお読みください。

メモリーチャンネルの保護

大切なメモリーチャンネルを上書きや消去から保護できます。初期値はOFFで、保護はされていません。本書を読み、受信できる信号を見つけてネーム編集するまでカスタマイズができたらONにしておくことをお勧めします。

- [FUNC]キーを押した後、ダイヤルを押し下げる。**〔DISP〕が表示されます。
- リングを回して「(MR)」を選び、ダイヤルを押し下げる。**「ProtCt OFF」が表示されます。初期値は保護しない「OFF」です。
- リングを回して「ON」を選び[FUNC]キーを押す。**登録されたメモリーチャンネルはネーム編集も含めて一切変更、上書き、削除ができなくなります。メモリーセットも禁止されます。*空きバンク/チャンネルへの新規登録は可能です。*この設定に関係なくPCソフト編集はできます。

取扱説明書

本機のすべての機能を詳細に網羅した取扱説明書も必ずお読みください。プリントした説明書は存在しません。コピーの販売は行っておりません。

「アルインコ DJ-X82 取扱説明書」で検索

取扱説明書

取扱説明書

ディスプレイ

ディスプレイ全体表示	左側	上側	On キーロック(誤操作防止)
88 888 1888 888 7 95 25	[FUNC]キー押すと点灯	WFMAM 電波形式AM/FM	
100 000 000 000 75 25	PRI プライオリティスキャン	ATT アッテネーター	
バンク番号	SKIP スキップ/お気に入り	BS バッテリーセーブ	Ch 充電 / 電池交換が必要
↓メモリーCH	👁 簡易盗聴器発見機能(周波数データリスト巻末参照)	* お気に入り選択メモリーチャンネル	
88 888 1888 888 7 95 25	🔊 空線キャンセル機能	🔊 シフト機能	
↑周波数		👁 ベル機能	
		BUSY ***** 受信信号の強さ	

定格 (抜料)

周波数範囲 (単位：MHz)	108.000～253.800 / 255.000～262.000 266.000～271.000 / 275.000～380.200 381.325～412.000 / 414.400～470.000 FMラジオ放送76.000～107.900
電波の型式	AM/FM(FM放送はWFM)
アンテナインピーダンス	50Ω不平衡 SMA端子
電源電圧	外部端子/USB 5V 電池端子 / 2.4V～3.0V
消費電流	受信定格出力時:約150mA / 待受け時:約90mA バッテリーセーブ時:約47mA
周波数安定度	±1.5ppm(使用温度範囲:−10℃～+60℃)
外形寸法 W×H×D	58×96×31mm (突起物除く)
質量	約200g (EBP-179、アンテナ含む)
受信方式	FM/AM・トリプルスーパーヘテロダイナ WFM：ダイレクトコンバージョン
低周波出力	最大100mW以上(8Ω時)

アフターサービスについて

保証書には必ず所定事項(ご購入店名、ご購入日)の記入および記載内容をお確かめの上、大切に保存してください。捺印や購入証明などが無いときは、レシート、送り状、通販の購入明細書など、品名と購入日が確認できる書類を合わせて保存してください。これが無いと、保証サービスは受けられず、理由を問わず点検は有償となります。保証期間は、お使いになっなくなってからお買い上げの日より1年間です。正常な使用状態で上記の期間中に万一の故障が生じた場合は、お手数ですが製品に保証書を添えて、お買い上げの販売店または弊社サービス窓口にご相談ください。保証書記載の内容で点検いたします。保証期間が切れたり、落着き・落下など使用者責任の故障は有料になります。

修理品の送り先：アルインコ電子サービスセンター
〒541-0043 大阪市中央区高麗橋4丁目4番9号 淀屋橋ダイビル13F
お問い合わせはフリーダイヤル 0120-464-007
土日祝日休業日除く10～12時/13～17時

株式会社エクセリ(代理店届出番号C1909977) 東京都墨田区菊川3 17 2アドン菊川ビル4F / 大阪府大阪市中央区久太郎町1 9 5 URL: https://www.exseli.com/